



子どもの貧困を考える ネットワークニュース

2017年4月号

隔月10日発行
発行:子どもの貧困問題
大阪ネットワーク理事会

子どものあしたを壊す、カジノあかん!

貧困の連鎖さらにひろがり、しわ寄せは子どもへ...



3月25日、子どもの貧困問題大阪ネットワークが実行委員会に参加する、『カジノあかん大阪集会』が開催されました。会場は960人(主催者発表)の参加者で隙間なく埋まり、「『カジノはあかん』の連帯の輪を広げ、カジノ誘致を阻止しよう」のアピール文が採択されました。また、①知らせよう②行動しよう③連帯しようの3つの取り組みが提起され、集会後は市内をパレードし「カジノで経済良くならない!」「カジノの予算を福祉にまわせ!」「家族を壊すな!大阪壊すな!」と訴えました。

ネットワークからは、中田理事長がリレートークで発言し、「子どもの貧困の原因は、親の貧困。子どもに責任はない。カジノはさらに多くの貧困を生み、子どもに直撃する。絶対に許せない!」と訴えました。また、その場でネットワークの活動を紹介し、加入についても呼びかけ、当日とその後と合わせて30人が加入していただきました。

中田進理事長

「カジノあかん大阪集会」のスピーチ要旨

朝起きたらパチンコのことしか頭にない。明日のことも今日の暮らしも子どもの事も考える余裕がなく、パチンコ屋に駆けつける。カジノができれば、パチンコに縁のなかった人もギャンブルの地獄に落ちる。暮しも人生もすべてが壊れる。そして、子どもが壊れ、明日の日本も壊れる。

一日の食事が給食だけ、夏休みのあとげっそり痩せて…。虫歯がありながら治療に行けない。100円がないので子ども食堂にも行けない!食欲旺盛でモリモリ食べて育つ…それが子どものあたり前の姿なのに…。

子どもの貧困の原因は「親の貧困」です。子どもに責任はありません。親の貧困の原因は雇用破壊です。1980年頃の非正規率は10%、今は40%。労働法制の改悪が雇用を破壊し、貧困層を増加させ、ギャンブル依存症へ…。カジノはさらに多くの貧困層を生みだします。そして、子どもを直撃します。

「子どもの貧困」の解決は緊急課題です。就学援助、給食の無償化、医療費の無料化、児童扶養手当の拡充、ひとり親家庭への支

援、給付型奨学金などの課題に、国と自治体がいますぐ全力をあげて取り組むべきです。いま各地で心ある人々が「子ども食堂」や「無料塾」を立ち上げ、子どもたちを支えています。こうした取り組みを調査し、連携をとることが求められています。私たちは「子どもの貧困問題大阪ネットワーク」を立ち上げ、こうした課題に少しでも役立ちたいと思っています。

いまこうしてスピーチをしている瞬間でも、全国でパチンコ・競馬・競輪・競艇に狂い、借金に追われ、家族、そして子どもにまで暴力をふるう人が…。

ギャンブル依存症はすでに成人の5%。カジノで依存症がさらに激増し、間違いなくこの惨劇は広がります。やめてください!子どものあしたのために、日本のあしたのために!



～私のひとこと～

戦争への反省から生まれた児童福祉

子どもと親の権利保障を



大阪自治労連 執行委員長 荒田 功

第二次世界大戦後、日本中に親や家族を失って食べることも困難な子ども達があふれていた。一刻も早くこの窮状を救い彼らを保護することが焦燥の課題だったという。こうして新憲法の下で 1947 年に児童福祉法が制定された。

同法は、次代を担う児童の健全な育成支援と、「福祉法」として積極的な精神を基本理念とした。その総則には、①子育ては、すべての国民の課題、②生活を保障され愛護されることは子どもの権利、③国と自治体は、保護者とともに子どもを心身ともに健やかに育成する責任を負うと明記している。

その後、1951 年に定められた児童憲章では「児童は、人として尊ばれる」「すべての児童は、心身ともに健やかに生まれ、育

てられ、その生活を保障される」「すべての児童は、愛とまことによって結ばれ、よい国民として人類の平和と文化に貢献するように、みちびかれる」とある。

子どもは大人の従属物ではない。未来の主権者である。そして、これらの理念を実現する責任が国や自治体にある。

国や自治体は子どもと親の現実に目を向けなければならない。経済的な理由によって子どもの環境に格差と生んではならない。富国強兵策を進める安倍政権のもとで、社会保障の理念が壊されようとしている。戦争への反省と教訓を忘れないためにも、今こそ「子どもと親の権利保障を執行せよ」と声を上げなければならない。

2017 年度継続加盟のお願い

子どもの貧困問題大阪ネットワークは、年度ごとに加盟していただく形式となっています。2017 年 1 月から新年度となり、2016 年度にご加盟いただいた団体・個人の皆様には、ネットワークから、随時、継続加盟の依頼書と振込用紙（会費：団体 1 口 5000 円、個人 1 口 1000 円）をお送り致します。

皆様にいただいた会費は、調査活動や資料の作成、シンポジウムの開催などに使用させていただきます。

ネットワークは皆様のご支援のもと活動しています。子どもの貧困問題解決に向けて、役員一同頑張っておりますので、本年度もご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先：jun_tsu@doc-net.or.jp (事務局・堤)

子ども貧困ネット活動紹介

子ども貧困ネットでは、①調査活動②子ども食堂③学習支援活動—の 3 つのワーキンググループを軸に子どもの貧困の実態を掴み、発信し、自治体との交渉、政策提言を行っていきます。

現在、府下で活動する諸団体への訪問を実施しています。活動状況や制度的な問題点について情報収集し、大阪府と面談を行う予定です。

【4 月度会議日程】

13 日 学習支援活動 WG 会議
18 日 三役会議
28 日 理事会